

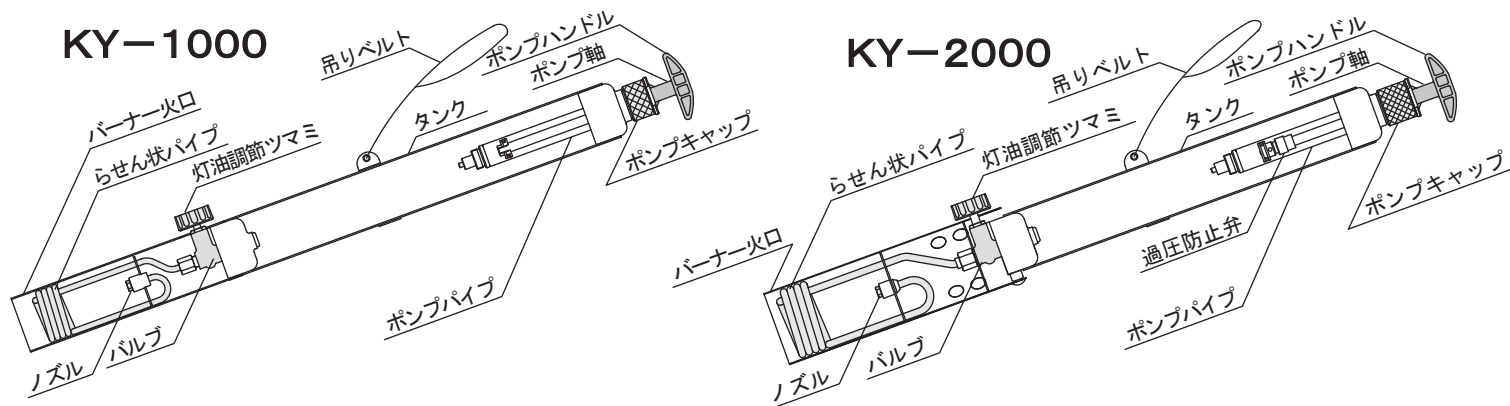
## 取扱説明書(保証書付)

このたびは **Sakae Fuji** 草焼一番「KY-1000/ KY-2000」をお買い求めいただきありがとうございます。

本製品は「火」を扱う製品です。取扱いを間違えますと、やけど・火災等の危害を及ぼす恐れがあります。取扱説明書の注意事項をよくお読みいただきからご使用ください。また、この取扱説明書は大切に保管してください。

❗ 本製品は日本国内専用です。海外への持ち出しはしないでください。

### 各部名称



### 仕様

| 型番    | KY-1000                  | KY-2000                |
|-------|--------------------------|------------------------|
| 本体寸法  | 全長1,008×幅50×高さ72mm       | 全長1,073×幅65×高さ83mm     |
| 本体重量  | 約1.6kg(燃料含まず)            | 約2.0kg(燃料含まず)          |
| 火口径   | φ50mm                    | φ65mm                  |
| 火炎温度  | 約1,360℃                  | 約1,360℃                |
| 火炎長さ  | 約350~400mm               | 約350~500mm             |
| 発熱量   | 約19.8kW(約17,000kcal/h)   | 約24.5kW(約21,000kcal/h) |
| 連続燃焼  | 約30~40分                  | 約25~35分                |
| タンク容量 | 1.0リットル                  | 1.0リットル                |
| 使用燃料  | 灯油(白灯油)                  | 灯油(白灯油)                |
| 付属品   | 予熱用ロックワール缶・L型レンチ・掃除針・ノズル |                        |

※発熱量は5分間の数値を1時間に換算したものです。  
※上記数値は当社実験データによるものです。

お買い上げいただきました製品は万全を期していますが、点検で不備な点、及び製品について不具合や不明点があった場合、また修理をご依頼の際はご購入になった販売店・代理店または弊社(0120-707120)へご連絡ください。

生産物賠償責任保険(PL保険)付  
MADE IN JAPAN

Since 1937  
**榮製機株式会社**  
〒441-0105 愛知県豊川市伊奈町佐脇原68  
TEL (0533) 73-1190(代)・FAX (0533) 73-1196  
http://www.sakae-seiki.co.jp/  
E-mail: info@sakae-seiki.co.jp

2018.2-1

### 絵表示の意味

- 危険** 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷を負う危険が切迫しているもの
- 警告** 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの
- 注意** 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・財産などの損害に結びつくもの
- 一般的な注意 一般的な禁止 必ずおこなう

### 無償修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、弊社が無償修理いたします。
- 保証期間内に故障して無償修理を受ける場合、本品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店か弊社にご依頼ください。
- 保証期間内でも次の場合は有償修理となります。
  - イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
  - ハ) 火災・地震・水害・落雷・その他天変地異・公害による故障及び損傷
  - ニ) 保証書のご提示の無い場合
  - ホ) お買い上げ日、販売店等の記載がない場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。
- 保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

### 保証書

草焼一番 屋外用筒型灯油バーナー KY-1000・KY-2000

保証期間 お買い上げ日より1年間

お買い上げ日 \_\_\_\_\_

取扱販売店・住所・電話番号 \_\_\_\_\_

ご芳名 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

お電話 \_\_\_\_\_

榮製機株式会社

### 使用燃料取扱上の注意(共通事項)

燃料は必ず灯油(白灯油)をご使用ください。

#### 危険

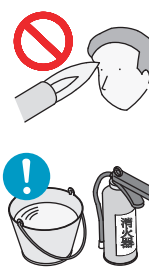
- タンクの中へは灯油以外の燃料(ガソリン・軽油等)は絶対に入れないでください。やけどや火災の原因となります。
- 変質・変色及びゴミ等の混ざった灯油は絶対に使用しないでください。異常燃焼及び火口内部のらせん状パイプやノズル詰まり等の原因となります。



### 製品取扱上の注意(共通事項)

#### 警告

- やけどや火災の原因となりますので下記の取り扱いを必ず守ってください。
  - 給油は必ず消火してからおこなう
  - 風の強い時は使用しない
  - 必ず風下を向いて点火、使用する
  - 火気厳禁の場所や可燃物(家屋・板べい・かやぶき屋根等)から3m以上はなれて使用する
  - 点火時及び使用中にバーナー火口をのぞき込んだり人に向けたりしない
  - 使用の際は消火器や水を入れたバケツなどを用意する
  - 使用後は燃やした物に必ず水をかけ、火だねが残っていないことを確認する
  - 火がついている場所から離れない



### 製品取扱上の注意(共通事項)

#### 注意

- バーナー火口を上向きにして使用しないでください。製品の機構上、燃料の供給ができず失火します。
- 加圧した状態で長時間放置せず、使用後は速やかにタンクの圧力を抜いてください。
- 使用后、タンク内に残った灯油は必ず抜いてください。灯油の変質、器具の故障の原因となります。
- 燃焼熱が製品に伝わり、製品を過熱するような使用はしないでください。故障の原因となります。
- バーナー火口部にゴミや異物等を付着させたまま使用しないでください。異常燃焼を起こし故障の原因となり危険です。
- お子様の手の届かない場所に保管し、お子様には絶対に使用させないでください。また、お子様の近くでは使用しないでください。
- 絶対に分解・改造をしないでください。故障や事故の原因となります。
- 本製品を雨や水などで濡らさないでください。故障の原因となります。
- 本製品は屋外専用です。必ず屋外で使用してください。
- 本製品は日本国内専用です。海外への持ち出しはしないでください。

### 故障・異常の見分け方(共通事項)

| 原因                   | 現象     |         |         |         |      |          |        | 処置方法  |
|----------------------|--------|---------|---------|---------|------|----------|--------|---|
|                      | 点火しにくい | 息が安定しない | 炎が突然消える | 灯油が生で出る | 炎が赤い | 灯油の臭いがする | 炎が消えない |   |
| タンク内の圧力が低い           |        | ●       |         |         |      |          |        | ポンプで数回加圧する                                  |
| タンク内の圧力が高い           |        |         |         | ●       |      |          |        | 消火して、ポンプキャップをゆるめて、タンク内の圧力を抜く                |
| タンクに灯油が入っていない        | ●      |         | ●       |         |      |          |        | 炎が完全に消えてから給油する                              |
| タンクに灯油が入り過ぎている       |        |         |         | ●       |      |          |        | 炎が完全に消えてから灯油を少し抜く                           |
| 注油口から灯油/圧力が漏れる       |        |         |         |         | ●    | ●        | ●      | ポンプキャップをしっかりと閉める                            |
| ポンプ部のパッキンがきかず加圧できない  |        | ●       |         |         |      |          | ●      | パッキンにワセリンを塗布する<br>パッキン(Oリング AS568-112)を交換する |
| 予熱不足                 |        |         |         | ●       | ●    |          |        | 予熱をやり直す                                     |
| ノズルの詰まり              | ●      | ●       | ●       |         |      |          |        | ノズルを掃除する                                    |
| バーナー火口が煙を吸い込むことによる酸欠 |        |         | ●       | ●       | ●    |          |        | 風上に立ち、燃焼物からバーナーを遠ざけて使用する                    |
| らせん状パイプの損傷           | ●      | ●       |         | ●       | ●    | ●        |        | 点検・修理を依頼する                                  |
| バルブ部の故障              |        | ●       | ●       |         |      | ●        | ●      | 点検・修理を依頼する                                  |

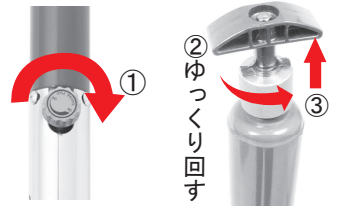
- 点検時やその他のいかなる場合でも、分解・改造をおこなわないでください。灯油漏れを起こし、事故につながり大変危険です。
- バーナー火口先端部が赤熱したり、黒いすすが付くのは故障ではありません。



# <KY-1000>

## ① 給油

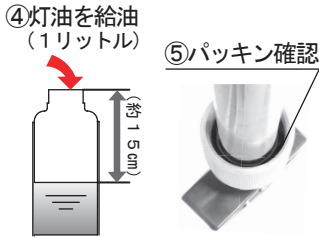
- 給油は必ず火が消えている状態でおこなってください。
- 灯油調節ツマミを閉閉とも強く締めすぎないでください。固着して動かなくなる場合があります。



- 灯油調節ツマミの「OFF」を確認します。
- 本体を正立させ、ポンプキャップを反時計回りにゆっくり回しタンク内の圧力をゆっくり引き抜きます。勢いよく回すとポンプ式が飛び出す恐れがあります。
- ポンプキャップを回しポンプ式をタンクから抜きます。ポンプパイプ等に汚れが付着しないようご注意ください。ノズル詰まりの原因となります。

- 灯油を1リットル(給油口から約15cmの所まで)入れます。
- ポンプキャップの中にパッキンがはまっていることを確認します。(紛失注意)
- ポンプキャップをしっかり締めます。締まっていないと灯油が漏れたり、加圧が出来ません。

- 給油の際に灯油をこぼした場合、タンクや周りに付着した灯油は、布等で拭き取ってください。(引火防止)



- ポンプハンドルを持ち、加圧します。加圧の目安は、灯油を1リットル入れた状態で、10~15回です。灯油の量が少ない場合は加圧回数を増やしてください。



- 加圧時、灯油漏れがないか確認してください。
- 加圧しすぎると、点火時に赤く長い炎(生火)になる恐れがあります。加圧しすぎにご注意ください。

## ③ 予熱

- 周辺に引火物・可燃物がないことを確認して、風下を向いて点火・燃焼してください。
- 必ず革手袋等を着用して作業してください。繊維の物や、灯油が付着した物は使用しないでください。(やけど防止)

- 予熱用ロックウール缶のフタを開け灯油を少量(大さじ1杯程度)入れます。
- 灯油の入ったロックウール缶に火をつけます。
- バーナー火口を下向きにし、ロックウール缶の炎を覆うようにらせん状パイプを約5分間予熱します。(予熱時間は外気温によって変化します)



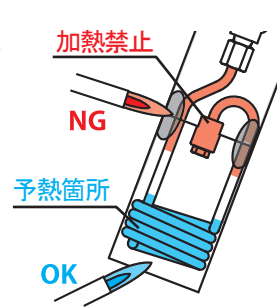
- 作業中、吊りベルトに引火しないようご注意ください。

### <ガストーチで予熱をお考えの方へ>

予熱には、Sakae Fujiの縦型ガストーチ(BT-20ZG/ZA/LY)がおすすめです。

右図OKの様に火口先端にガストーチを近付け、らせん状パイプの巻いている所(青色箇所)のみ全周熱してください。(灯油の飛び出し注意)

ノズル部(右図赤色)をガストーチで熱さないでください。故障の原因となります。



## ② 加圧

- 灯油調節ツマミの「OFF」を確認します。

# <KY-2000>

## ① 給油

- 給油の方法は、KY-1000の「給油」の手順に従い操作をおこなってください。タンク容量はKY-1000と同じ(1リットル)です。

## ② 加圧

KY-2000は過圧防止機能(タンク内の圧力を一定値以上かけないようにするための機能)が内蔵されています。

- 灯油調節ツマミの「OFF」を確認します。
- ポンプハンドルを持ち圧力が抜けるまで加圧します。(過圧防止機能付き)加圧の目安は、灯油を1リットル入れた状態で、10~15回です。灯油の量が少ない場合は加圧回数を増やしてください。



- 加圧時、灯油漏れがないか確認してください。

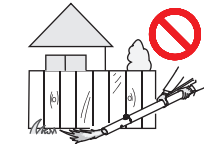
## ③~⑥ 予熱・点火・消火・保管

- 予熱・点火・消火・保管の方法は、KY-1000の「予熱」「点火」「消火」「保管」の手順に従い操作をおこなってください。

- KY-2000は過圧防止機能が内蔵されています。点火時の異常燃焼(生火や、灯油が液体で出る場合)は予熱不足が原因です。灯油調節ツマミを閉じ、再度予熱をおこなってください。

## 火災に注意(共通事項)

風の強い日や火気厳禁の場所、木造建築物などの可燃物の近くでは絶対に使用しないでください。火災の原因となり大変危険です。使用後は燃やした物に必ず水をかけ、火だねが残っていないことを確認してください。



可燃物付近での使用厳禁



水をかけ消火を確認

## 供給可能部品一覧

|         |   |                              |
|---------|---|------------------------------|
| KY-1000 | ポンプ式<br>(Oリング ※1, ※2 組込)                              | バーナー外管<br>(外管用トラスタッピンネジ 3ヶ付) |
| KY-2000 | ポンプ式<br>(Oリング ※1, ※2 過圧防止機能 組込)                       | ノズル                          |
| 共通部品    | ポンプ用Oリングセット<br>※1 Oリング P22 ※2 Oリング AS568-112 ※ワセリン塗布済 | 予熱用ロックウール缶                   |
|         | 吊りベルト   | 掃除針                          |

※お求めの際は、製品をお買い上げいただいた販売店でお取り寄せください。  
※一覧にない部品は出荷できません。(修理扱いになります)

## ④ 点火

- 予熱後、そのまま灯油調節ツマミを少し開き点火します。
- 炎が安定したら灯油調節ツマミを徐々に開いていきます。
- 炎が小さくなってきたら、少しずつ追加加圧してください。

- 加圧しすぎると、赤く長い炎になる恐れがあります。
- 燃焼中にバーナー火口を上向きにすると、製品の機構上、燃料が供給できず失火します。

- 火のついたロックウール缶はフタをかぶせて消火してください。(灯油を足すことで何度でも使用できます)



正常燃焼時

## 警告

- 赤く長い炎(生火)や、灯油が液体の状態が出た場合は、やけど・火災の原因となりますので、下記の取り扱いに従い慌てず操作してください。

- 点火時の異常燃焼は、予熱不足・加圧しすぎです。すみやかに灯油調節ツマミを閉じ、圧力を抜いてから再度予熱をおこなってください。

- 燃焼中の異常燃焼は、加圧しすぎです。すみやかに灯油調節ツマミを閉じ、圧力を抜いてから再度点火の操作をおこなってください。



異常燃焼時

## ⑤ 消火

- 消火時や消火後は、バーナー火口や灯油調節ツマミ等がしばらく熱くなります。素手などで触れないでください。

- 灯油調節ツマミを「OFF」の方向へ止まるまで回します。らせん状パイプに灯油があるため、火はすぐには消えませんが、次第に消えていきます。

- 燃やした物に火だねが残っていないことを確認してください。(火災防止)



### <緊急時の消火方法>

- ノズルが水に浸かるように、バーナー火口を用意した水の中に一気に入れ消火してください。
- 灯油調節ツマミを閉じてください。(緊急時以外は通常の消火方法に従ってください)

## ⑥ 保管

製品内から灯油を完全に出してください。(らせん状パイプ・ノズル等の詰まり防止)

- タンクを正立した状態で、ポンプキャップを反時計回りにゆっくり回し、タンク内の圧力をゆっくり抜きます。
- タンク内の灯油を受け皿等に全て抜きます。
- 長時間使用しない場合は、灯油調節ツマミを開き10~15回加圧して、らせん状パイプ内に残っている灯油を抜きます。

- 灯油が残ったままの場合、灯油の変質による器具の故障・詰まりの原因となります。

- 再度タンク内の圧力を抜きます。

- 必ずポンプハンドルを押し込んだ状態で保管してください。(ポンプ軸折れ防止)

- 汚れは布などでふき取り、高温多湿を避け風雨の当たらない場所に保管してください。



## 日常の点検・手入れ(共通事項)

必ず作業用手袋を着用してください

- 必ず製品が十分に冷めた状態でおこなってください。

### <ポンプ部の手入れ>

パッキンは消耗品です。加圧時にポンプハンドルの動きが硬くなったり、加圧できない場合はポンプ用Oリングセット(別売品)をお買い求めいただき、次の要領で早めに交換してください。

- パッキン交換時の注意事項(加圧できない原因となります)
  - ポンプパイプにゴミや異物が付着していないこと
  - パッキンにゴミや傷をつけないこと

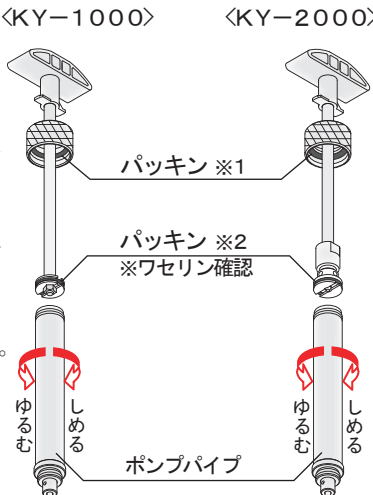
- タンクを正立した状態で、ポンプキャップを反時計回りにゆっくり回し、タンク内の圧力をゆっくり抜きます。
- ポンプキャップを回しタンクからポンプ部を抜きます。
- ポンプパイプを持ちポンプキャップを反時計回りに回し、ポンプパイプを抜きます。
- パッキン(Oリング P22(※1)及びAS568-112(※2))を交換します。

- パッキン(※2)にワセリン(潤滑剤)が付いていることを確認してください。

- ポンプパイプとポンプキャップを時計回りに固く止まるまで回して組付けます。

- きちんと締まっていないと灯油の漏れや、加圧できません。

- ポンプ部をタンクの中に入れてポンプキャップを時計回りに固く締めます。

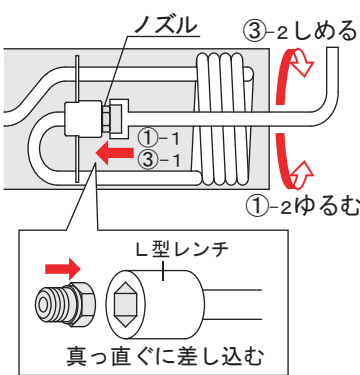


### <ノズルの手入れ>

ノズルが詰まった場合は、次の要領で掃除してください。

- 付属のL型レンチをノズルの六角部分に真っ直ぐに差し込み、ノズルを取り外します。
- 付属の掃除針をネジ側より入れて、ノズルを掃除します。ノズルの中心の穴は丸い形です。穴に光を当ててのぞき、欠けていたらゴミが付着しているため、再度掃除針で掃除してください。汚れが付いている場合、きれいな布等で拭き取ってください。
- L型レンチにノズルを入れ、本体に真っ直ぐ差し込みしっかりと締め付けます。

- バーナー火口の先端で手を切らないようご注意ください。
- ノズルをしっかりと締めてください。締まっていない場合正常な燃焼ができません。



- 故障や破損など不具合と思われる製品は、おもて面の「故障・異常の見分け方と処置方法」を参考に処置してください。それ以外で故障や破損など不具合と思われる製品は、使用しないでください。思わぬ事故につながります。不具合の際は、販売店・代理店または弊社へご連絡ください。修理対応させていただきます。(出荷できる部品もあります。「供給可能部品一覧」をご確認ください。)